

エンドポイントセキュリティの強化に HP Sure Click Enterprise の隔離技術を活用

三井不動産レジデンシャルリース株式会社



ここ数年、巧妙化が進むマルウェアに対抗するため、セキュリティをより強固にする動きが活発だ。進化を続ける脅威に対応するためには、従来のシグネチャ型アンチウイルスソフトだけでは防御しきれないため、新たなソリューションが求められている。特にハイブリッドワークを採用する企業が増える中、大きな課題となっているのがエンドポイントにおけるセキュリティ強化だ。ここでは、HP Sure Click Enterpriseの導入で課題を解決した三井不動産レジデンシャルリースの取り組みを紹介しよう。

目的

- ・最新の脅威に対抗するためエンドポイントセキュリティの強化を実現する

アプローチ

- ・独自の隔離技術により悪意を封じ込めるHP Sure Click Enterpriseの導入

システムの効果

- ・機密情報の保護
- ・リスクの最小化

ビジネスの効果

- ・運用・導入コストの削減
- ・導入期間の短縮

グループ全体における更なるセキュリティ強化

三井不動産レジデンシャルリース株式会社（以降、三井不動産レジデンシャルリース）は三井不動産のグループ企業で、賃貸マンションの企画、運用などを幅広く手掛け、多くの法人、個人の物件オーナーにとってかけがえのない相談相手として各方面から厚い信頼を得ていることで知られている。物件を貸したい、借りたい人へ最良の提案を続けており、「三井の賃貸」だから選んだ」「今後も選びたい」と言われる企業を目指しビジネスを続けている。

「不動産事業は全般的に法人、個人問わず機密情報を多く取り扱います。セキュリティには厳しい基準が設けられており、常にリスクを最小限に抑えられるような運用を心がけています」と語る清水氏。信頼がもっとも重要な資産でもある同社は当然、セキュリティへの意識は常に高く持つようになっているのだという。「三井不動産グループ全体で、脅威を増しつつあるランサムウェアなどのセキュリティ対策をより強固にする取り組みが始まりました。弊社としても対策へ向けてEDRの導入なども視野に入れて検討中でした」と石川氏は言葉を続ける。

業界の中でも大手となる三井不動産グループだけに、近年増え続けているランサムウェアや標的型攻撃への備えを強化するという流れはある意味自然でもある。

様々なEDR製品を検討したが、候補に残った製品の中には脅威情報を検知した場合、迅速な事後対応が必要となるケースもあった。「脅威を検知した時点で変化する脅威の状況に応じて迅速に専門スキルを持って適切かつ確実に対応する必要があります。結果として防御力は専門スキルや経験に依存してしまい、ハードルが高いと感じていました。そこで専門スキルに依存せずに、高度なセキュリティ対応が可能なソリューションが必要と判断しました」と清水氏は語る。

こうして三井不動産レジデンシャルリースが求めるセキュリティソリューションの発掘が始まった。

HP Sure Click Enterpriseの隔離技術による課題解決

そのタイミングで相談を受け、新たな提案をすることになったのがSCSK Minoriソリューションズだ。「Windows 10移行プロジェクトからのお付き合いになりますが、以降も様々な場面でご相談をお受けしておりました。専門スキルに依存せず、万が一脅威が含まれるファイルを開いても仮想空間内に封じ込め、アプリケーションを閉じるだけでシステムへの侵入を防ぐことができるHP Sure Click Enterprise（以降、HP SCE）をご提案させていただきました。このソリューションなら専門スキルの差が防御力の差とはならず、結果的に高い防御力を発揮することになります」と語る辻川氏。

HP SCEはマイクロVM内に構築した仮想空間に悪意を封じ込めるマルウェア対策ソリューションとして広く知られているが、その際の脅威情報をサーバに集約し、レポートを作成する分析・可視化としての役割を持っている製品でもある。「多くのログから必要な情報を読み取る必要のある一般的なEDRとは違い、隔離環境内の脅威ログはノイズが少なく、脅威の詳細情報が非常にクリアに観測できます。



左から、三井不動産レジデンシャルリース株式会社 情報システム部長 清水 智晴氏、情報システム部 システム運用課 主幹 石川 雄一氏



左から、SCSK Minoriソリューションズ株式会社 産金・金融ビジネスユニット Co-Creation営業本部 Co-Creation営業第一部 第二課 課長 辻川 真徳氏、クラウド基盤ビジネスユニット クラウド基盤サービス第二事業本部 マネージドサービス部 第一課 山本 篤毅氏



左から、株式会社ブロード 営業本部 本部長 沼田 貴寿氏、株式会社日本HP サービス・ソリューション事業本部 ソリューション技術部 ソリューションアーキテクト 木下 和紀エドワルド氏

そもそもランサムウェアなどの一般的なシグネチャ型アンチウイルスソフトでは対応できない脅威も防げる上に、レポート作成機能が搭載されるなど、詳細な分析も可能な製品としても活用いただけるので、人的負担の少ないソリューションになります」とHP 木下氏は解説する。

提案を受けた三井不動産レジデンシャルリースはこれを承諾。HP SCEの本格導入へ向けてプロジェクトが進むことが決定した。HP SCEが候補として選ばれたタイミングで三井不動産レジデンシャルリースが導入していたアンチウイルスソフトの更新が切れるところであったため、PoC（Proof of Concept：概念実証）を始めるには最適のタイミングだったという。「導入期間が短くて済むのもHP SCEの特徴です。2022年1月にPoCを実施し、大きな問題がなければ同年6月には本格導入するというタイムスケジュールを組みました」と導入支援をした株式会社ブロードの沼田氏は語る。

レベルの高いエンドポイントセキュリティの実現を目指す

順調なスケジュールだったが、PoCではすべてがスムーズだったわけではなかった。「テスト中にあるアプリケーションでパフォーマンスが著しく落ちる現象が発生しました。動作が非常に重く、起動にも時間がかかりすぎるため、HPの木下様にもサポートいただきながら原因を調べました」とSCSK Minoriソリューションズ 山本氏は当時を振り返る。

調査の結果、HP SCEによるものではなく、特定PCのCPU仮想化機能が原因であったことが判明。問題はほぼ解消することができた。「これもPoCによる効果ですね。結果的にHP SCEが原因ではありませんでしたが、トラブルが起こった際にもSCSK Minoriソリューションズさんやブロードさん、HPさんには迅速にサポートをいただき、とても安心することができました」と石川氏は語る。

その後PoCは順調に進み、本格導入を実施。現在、三井不動産レジデンシャルリースはHP SCEの本格運用を開始している。「HP SCEの導入により防御レベルが格段にアップしたと考えます。できることなら、何も検出されないことが理想ですが、万が一の際においてもスピーディーな対策が可能なシステムを構築できたと満足しています」と清水氏も言葉を続ける。

現在、三井不動産レジデンシャルリースは、SCSK Minoriソリューションズのサポートもあり、HP SCEによる最新で強固なセキュリティ体制によるIT運用がなされている。

「私たちは大切なお客様の情報を守るために、レベルの高いセキュリティを常に実現していかなければなりません。企業を狙う攻撃手法は進化しますし、対抗するテクノロジーも進化します。そうした動きに合わせていくには私たちだけでは難しい部分もあります。そういった意味で、SCSK Minoriソリューションズさんや、HPさんには最新情報の提供や新しいソリューションの提案など、引き続きのサポートをいただけるとうれしいですね」と石川氏。

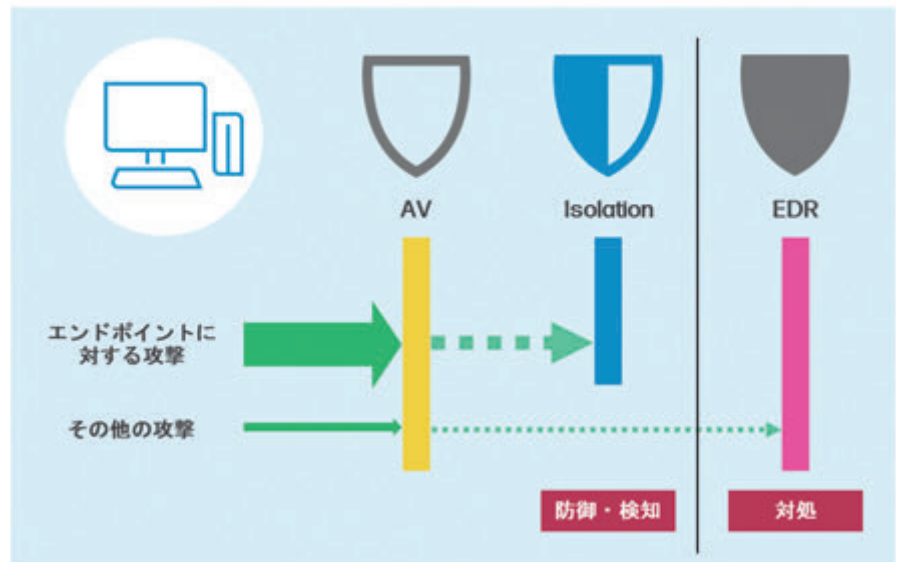
「HP SCEは仮想空間に悪意を封じ込めて、アプリケーションを閉じればそれ以

“専門スキルに依存せずに、高度なセキュリティ対応が可能なソリューションであるHP SCEは、弊社にとって適切な選択であったと考えます”

三井不動産レジデンシャルリース株式会社
情報システム部長 清水 智晴氏

上悪意が進行できません。ですから、従業員は安心して作業が続き、生産性を維持することができます。今後も安心感のある運用サポートや、幅広い面で新たなソリューションの提案などで、バックアップしていただくと心強いです」と最後に清水氏は語ってくれた。今後も、SCSK MinorソリューションズとHPは、三井不動産レジデンシャルリースの安心安全なセキュリティ運用のためにサポートを続けてゆく。

隔離技術によるエンドポイントセキュリティレベルの強化



© Copyright 2023 HP Development Company, L.P.

記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記事事項は 2023 年 7 月現在のものです。

